

# いづみニュースレター

令和7年5月発行 第31号

新年度のスタートにあたり

理事長 鈴木久弥

新年度に入り、皆様にはご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。今年度も早いもので2か月が経とうとしていますが、お陰様で、法人内のどの事業所も順調にスタートを切ることができました。事業所それぞれにいくつかの課題もありますが、そのような中でも、管理者を中心に職員が力を合わせて、利用者支援や事業所運営に精一杯取り組んでいるところでございます。

さて、2024年の今年の漢字第1位は「金」でした。オリンピック・パラリンピックの日本選手の活躍だけでなく、裏金問題や物価高騰など様々なことから「金」をあげる人が多くいました。今年の漢字は、その年の社会で起きた出来事を振り返り、漢字一字で表すことを通して様々な場面で活性化に役立てるものですが「いづみ」にとっての漢字一字は何だったでしょうか、私も考えてみました。希望的観測も含め、「楽（らく）」楽しいかなと思います。小平特別支援学校の生徒との交流の中での「一人の人間として人生を楽しみたい」との言葉が印象的でしたが、石破政権も政策の中で「楽しい日本」を目指すとのことです。堺屋太一氏の著書「三度目の日本」で示されたものですが「一度目の日本」は「強い日本」で幕末・明治維新から第二次世界大戦の時期で国家の軍備強化と国際的地位の向上が進んだ時代です。「二度目の日本」は「豊かな日本」で戦後復興から高度経済成長の時期で大量生産の社会を構築し、経済大国となった時代です。「三度目の日本」は2020年代からの時期で「楽しい日本」と定義し、多様な価値観を尊重し、一人ひとりが創造性を發揮できる社会を目指すとのことです。

「いづみ」にとって大切なこととして、利用者に楽しんでいただくことがあります、それと合わせて職員にも楽しく仕事をしていただくことがあると考えています。2025年度の「いづみ」にとっての漢字一字が「楽（らく）」楽しいになるように期待しています。

次に楽しく仕事をすることの関連で「幸福論」で有名なフランスの詩人のアランの言葉に「歌いながらパンを得よ」というものがあります。一般的に人は働くなければ生きていけません。楽な仕事はありませんが同じ働くのなら、幸せを感じながら、歌いながらのほうがいい。今の仕事が好きでない人もやりがいや楽しみを見つけて働くことが大切です。いつも歌いながらパンを得られたら素敵ですね。

最後にいつも私が心がけていることをお話しします。梅沢富雄氏の「夢芝居」の一節で「稽古不足を幕は待たない」というものがあります。どんなことでも準備は大切です。準備不足で当日を迎えてうまくいくはずはありません。何をするにも一番大事なのは事前の準備です。常に大事にしている事あります。

稚拙な内容ではありましたが、皆様におかれましても少しでも参考にしていただけたらと思います。

# ～各事業所より～

今回のテーマは、「虐待防止研修を受けて、どの様に現場に持ち帰るか」です。各事業所でミーティングを行ない、どの様に活用していくのか話し合いました。ほんの一部ですが、ご紹介させていただきます。



## 虐待防止研修から学んだこと

あゆみの家成人部

- ①各事業所の虐待防止についての取り組み報告から。
- 施設内での虐待防止に努める事だけでは無く利用者様を取り巻く社会・環境をよく知ることでその中で行われる不適切・虐待問題に気づくことも支援員には必要になる。
- 不適切な支援と感じたことを具体的な例にして、全員で一つひとつ丁寧に検討している。

## ②講師の講義から。

- 長年学校の教員・校長職に携わってきたが、教育方針や人権擁護の考え方はその時代やニーズにより変わっていく。その中で本当に「変えていくこと」「引き続き行う事」をチームでよく話し合うことが大切だということ。
- 本人との関係性が近しいことによってこそ気づけない事や、話しづらいことがある。第三者が介入することで見つけられる課題もあると思う。
- 意見交換は正解を導く前の、それぞれの思いを「知り合う」こと。

などがあげられました。今後はこれらの意見・提案を成人部の支援にどう取り入れいくのか話し合い、利用者様の更なる人権擁護・虐待防止に取り組んでいきます。

増田

## より良い支援を目指す為に

ひまわり（児童発達支援）

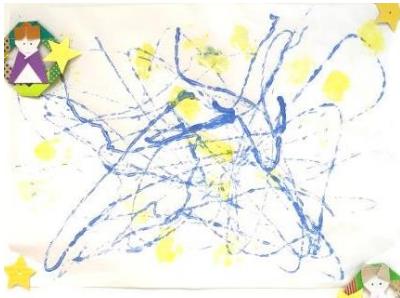
「不適切な支援を見逃していく事で虐待に繋がっていく」この一言は、東京都障害者虐待防止・権利擁護研修で言われた事です。

日常の小さな出来事から日々の支援を振り返る事が、不適切支援をなくし、より良い支援に繋がっていきます。不適切支援の一例としては「自分（支援者）基準で判断している」「他の代替案を考えない」「言葉による制限をかける」「『忙しい』・『後で』等言っている」等があります。

ひまわりでは会議等を中心に常日頃から支援方法や言葉がけ等について見直し、気になる点については職員間で声をかけ合うようにしています。令和6年度では、排泄介助の場所、入浴支援での身体の洗い方等を、改善しました。

今まで行ってきた当たり前の日常、支援であっても、一人の職員がおかしいと感じ声に出した時、職員全員で振り返り、見直して改善する事が、不適切支援をなくし、より良い支援に繋がっていくと感じています。

西島



## “今”の子どもたちに、より良い支援を目指して

ひまわり（放課後等デイサービス）

ひまわり放課後等デイサービスでは年3回虐待防止や不適切支援に関する自己評価を実施し、その結果と日々の対応について職員で話し合う機会を作っています。今回はこの権利擁護・虐待防止研修を受けた後に話し合いを行いました。

個々の児童の活動への参加方法、水分摂取を嫌がる児童の対応、もの投げ、他害など不適切行動時の支援方法など、さまざまな話題が飛び交いました。

法人研修でも「時代は常に変わっていく、今の価値観が数年後に全く違うものになっているかもしれない」との話しがありました。放課後等デイサービスに通う子ども達は成長段階にいるため、半年後には違う支援が必要になる事も少なくありません。子ども達の変化に合わせて職員全体で常に考え、情報共有をしながら“今”的子ども達に合うより良い支援をしていきたいと考えています。

前管理者 小山

## 「虐待防止研修をうけて、事業所で話し合いどう取り組みに反映させるか」

ファウンテン（グループホーム）

研修後に個々に職員にヒアリングを実施しました。虐待防止とそれにつながる不適切支援を防止する取り組みとして、自分自身の介護が適正か否かを自分自身の価値観がどうなのかを自己点検するためにも継続的な研修は必要だという意見が多く出ました。

特にファウンテンでは法人いすみ以外から転職してきた職員が多いこともあり不適切支援に対する考え方の温度差があると感じています。

それに対する取り組みについてはケース会議を定期的に開催し各自の支援に対する考え方の差異をお互いに発見し是正していくことを今年度は力を入れて取り組んでいるところです。

しかしながら職員同士では知識や経験に限界があります、今回の様な研修は学校分野の取組の実践など広い知見からの物の見方を知る貴重な機会につながったと思います。

梶沼



## 「虐待防止研修を受けてどの様に現場に持ち帰るか」

ライフサポートつばさ

令和6年度の虐待防止研修を通して、①私たち支援員はサービス業である。しかしサービス業としてではあるが、全て「Y e s」という事が難しい場面もある。②「時代によって正しい事も変わっていく」という事が響き、何事も、その時の正解も、時間が経てば不正解になる。③アンテナを日々張り最新の情報収集が大切なのである という内容が特に印象に残りました。そして、会議の中で、「声なきこえを聞いていくという事が大事」との意見もでました。

つばさは、言葉でコミュニケーションを取ることができる方もいれば、難しい方もいる中で、日々の支援はどうしても会話ができる方が優先になってしまう事があります。コミュニケーションを取ることが難しい利用者様の気持ちを大切に支援していくことを、今までよりも心掛けていると話をしました。

私たち職員は、家族のような存在にはなれませんが、利用者様がいつか今の生活とは違う生活に移る時に、少しでも困らずに生活を続けていけるよう、利用者様の将来も考えながら、個々に合わせたコミュニケーションを取れるように、日々の支援での時間を大事にしていきたいと思います。

加藤

## ひだまりに反映させられること

ホームヘルプひだまり

私達は3月1日の虐待防止（人権擁護）研修を受講して、①人権を擁護する（守る）ということは、一人と丁寧に応対すること。②時代や考え方の変化に伴って、「引き続きやっていくこと」と「変えていくこと」とがあるという考えに立つこと。③職員でよく話し合う事が大事である。ということを学んだ後、アンケートを用いてホームヘルプひだまりに、どう反映させていけるかの考えを出し合った内容をお伝えします。

・「1人の人間を見る」ということが大切だと感じました。ひだまりは1対1での支援。当然、できていることと思っていたが、「時間」や「支援内容」にとらわれ、「利用者の気持ち」が置き去りにされてしまうことがあるのも事実です。その時の状況や、利用者さんの体調などに合わせて対応していくことが大事だと考えます。その為にも日頃から、チームとして関わることを1人1人が意識して、いろいろな「気づき」を共有しあえる時間を作る。関係を作ることに努めていく必要があると思います。

・利用者さんの小さな変化は、日常支援に入っている人と時々しか入らない人で感じ方が違つたりするので、それらの点もヘルパー個人で止めないで共有することが大切だと思いました



### ◎ひだまり保護者交流会の様子（1月20日開催）



### ◎ひだまり職員リフレッシュ企画の様子（2月18日開催）

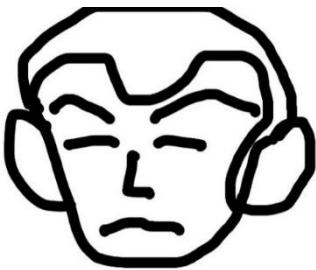
職員交流を目的に1年に1回開催。なかなか倒れぬ、、、じれったい巨大ジェンガ。



北本

# 職員ひとこと

今回のニュースレターのテーマは「利用者さんとの楽しかった思い出」です。日々皆様と一緒に過ごしていくなかで、職員の楽しい、楽しかったと思ったこと教えて頂きたいと思います。



所属 ホームヘルプひだまり  
名前 北本 (経験年数 4年目)

私の利用者さんとの楽しかった思い出は、一緒に両国国技館に 24 時間テレビの募金を行った事です。

国技館に入るとステージ上に嵐などがいて、有名人を見る貴重な経験が出来ました。

私は遠出をしない人間なので、両国まで連れて行ってもらったのは楽しくもあり、大切な思い出です。



所属 ひまわり  
名前 西島 (経験年数 9年目)

卒園修了式では、卒園証書、修了書授与や、今までを振り返るスライド上映があります。

ひまわりで過ごしてきた軌跡、子ども一人一人の成長をスライドで見ていると毎年感慨深く、寂しさと同時に、かわいい子ども達が小学生になっていく感動を覚えます。

ひまわりと一緒に過ごせた感謝の気持ちを忘れずに、日々大切にしていきたいと気が引き締まります。



所属 ファウンテン  
名前 和気 (経験年数 1年目)

ファウンテンに入社して、1年が過ぎました。重度の障害者支援は、初めてで難しい所もありましたが、少しづつですけど慣れてきて、色々と、勉強になりました。

利用者さんといっしょに歌を歌ったり、食事のときに話かけて笑ってくれたり、顔を見て喜んでくれるようになったことが嬉しかったです。まだまだ、未熟で慣れないことも多いですが頑張っていきたいと思います。



ある日のこと、いつものように利用者さんにクッションチェアから立っていただく際に、チェアがお尻にハマったままズルズルと一緒に付いてきてしまった時がありました。

利用者さんも驚いたのか、一緒に大笑い…。些細なことですが私にとっては思い出に残る一瞬でした。

これからもそんな笑いあえる楽しい思い出を利用者さんと作っていきたいです。

所属 あゆみの家成入部  
名前 岡田 (経験年数 2年目)



つばさ祭りや忘年会等、楽しみな年間行事は色々とありますが、何といっても宿泊行事が楽しかったです。バス移動の車内での利用者様との会話だったり、宿泊施設で利用者様と過ごす時間だったり。

非日常的な時間を利用者様と過ごせた事は、自分自身のリフレッシュにもなったし、何より利用者様に楽しんで頂けたことが本当に嬉しかったです。今後も一日外出など、利用者様と非日常的な時間が過ごせる活動はありますので、自分自身も楽しみながら、いかに利用者様に楽しんで頂けるか、喜んで頂けるかを考えながら支援出来たらと思います。

所属 ライフサポートつばさ  
名前 原 (経験年数 8年目)



## ～ 永年勤続表彰 ～

年度末に、法人いづみでの勤務の長い職員の表彰を行いました。

私たちの行う支援の“要”というべき存在です。

### (1) 勤続 20 年

小山 大志	あゆみの家成人部	施設長
田中 裕樹	ひまわり（放課後等デイサービス）	管理者
吉村 淳	ひまわり（放課後等デイサービス） / あゆみ家成人部	児童指導員/生活支援員
梶沼 知徳	ファウンテン	管理者
江崎 明子	ファウンテン	管理者代行
高木 圭子	ライフサポートつばさ	看護師
星 美佐子	ホームヘルプひだまり	管理者代行
会田 美信	ホームヘルプひだまり	主任・サービス提供責任者
田中 陽子	ホームヘルプひだまり	居宅介護員
松本 恭子	管理本部	事務局長

### (2) 勤続 15 年

石丸 君江	ひまわり（放課後等デイサービス）	児童指導員
高橋 由紀子	ホームヘルプひだまり	居宅介護員
上田 道子	成人部／ひまわり／つばさ	音楽療法士

### (3) 勤続 10 年

西浦 真実	ファウンテン	事務員
-------	--------	-----



## 編集後記

各事業所の記事は虐待防止研修をうけて、各施設でどのように活用していくかについて話し合った内容を記載させて頂いています。

「虐待をしない、させない」ために、どのようにしていいかいいのか。各々で感じたことが多々あった事と思います。

虐待が起きないために、風通しのよい職場環境を継続して、楽しく、日々共に笑い過ごしていく支援を日々全職員で、励んでいきたいと思います。

ライフサポートつばさ 加藤

発行元 社会福祉法人いづみ  
東京都東村山市富士見町 3-3-4  
TEL 042-394-1868

※記事内の写真についてはご本人、ご家族のご了承を得たうえで掲載しております。